

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 1 月 14 日 11:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,000～43,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～110.895

エリオット波動とは

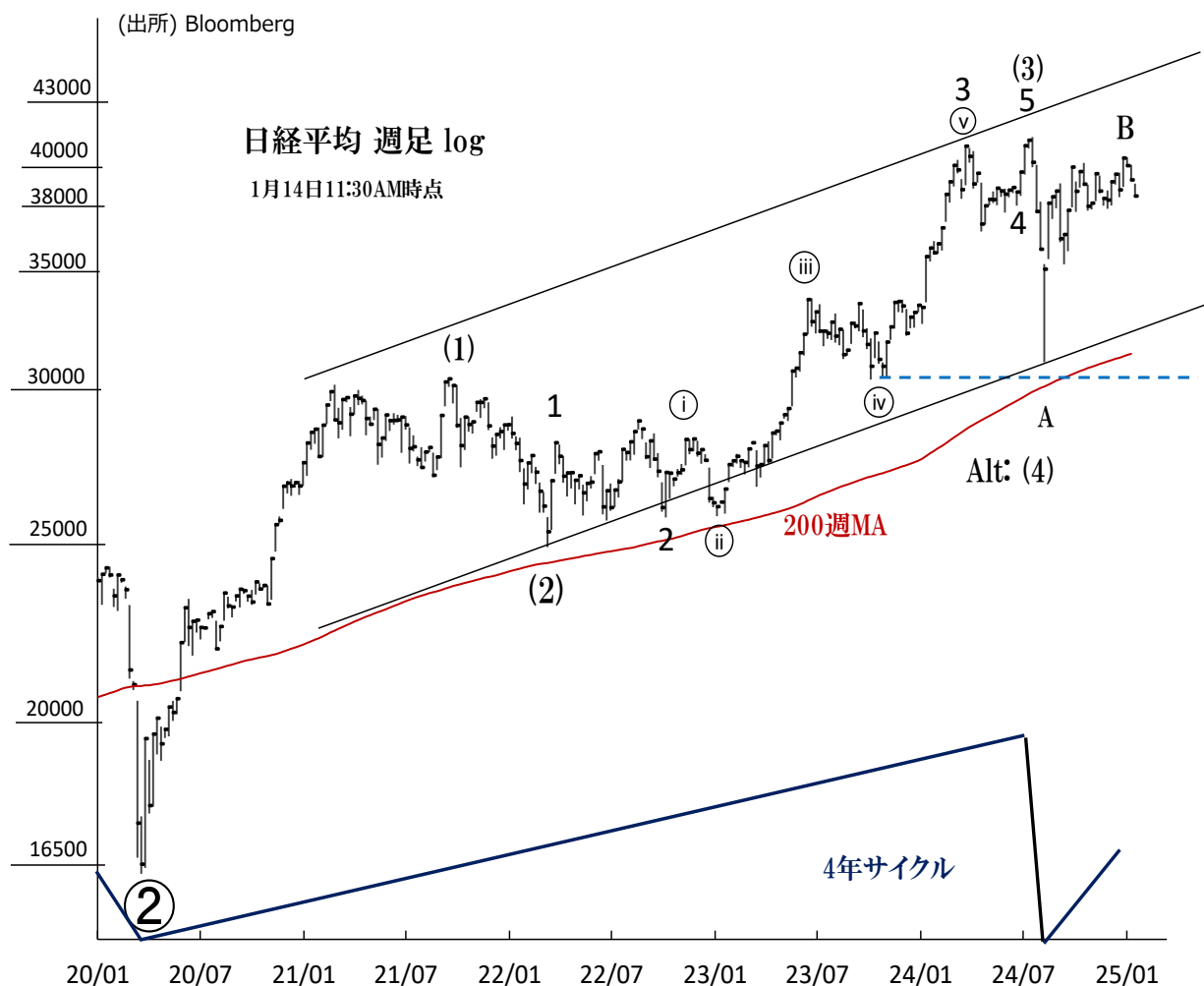
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

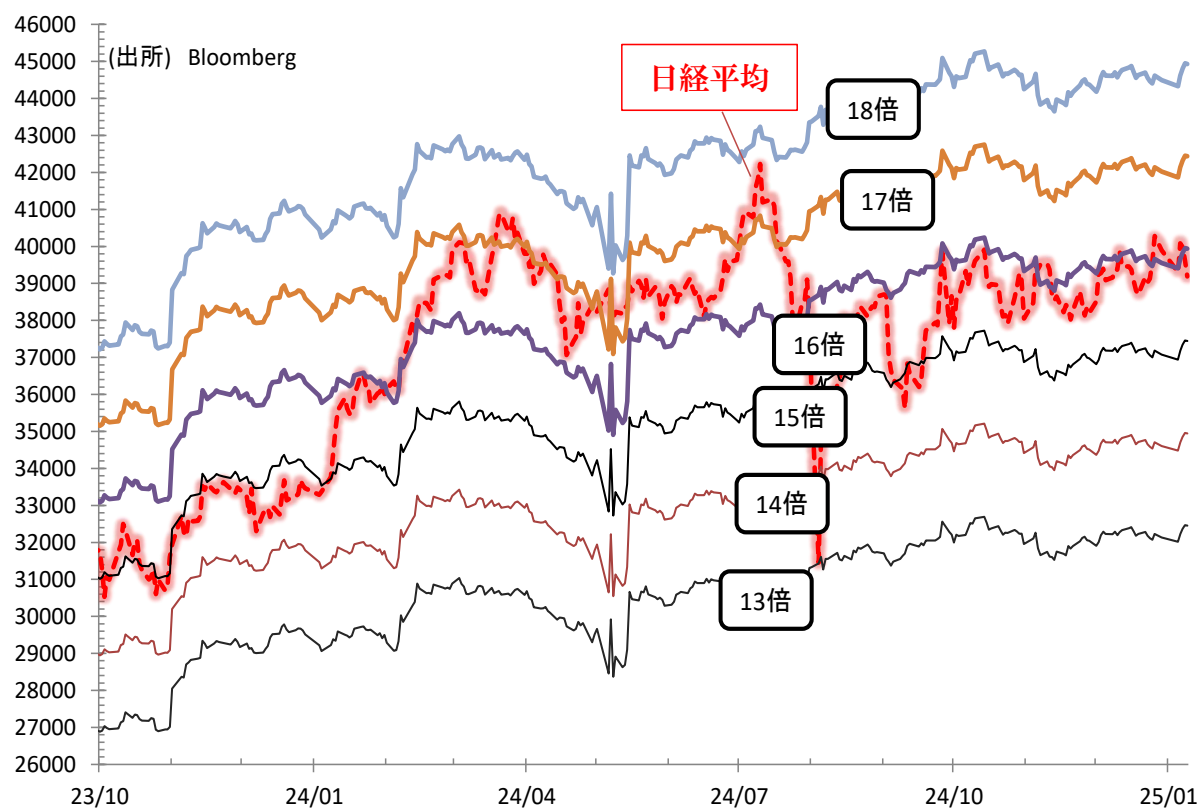
2025 年、日経平均はインターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です。

この第(5)波上昇を以て、5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』の完結)、以降はプライマリー第④波による停滞局面に移るとみています。

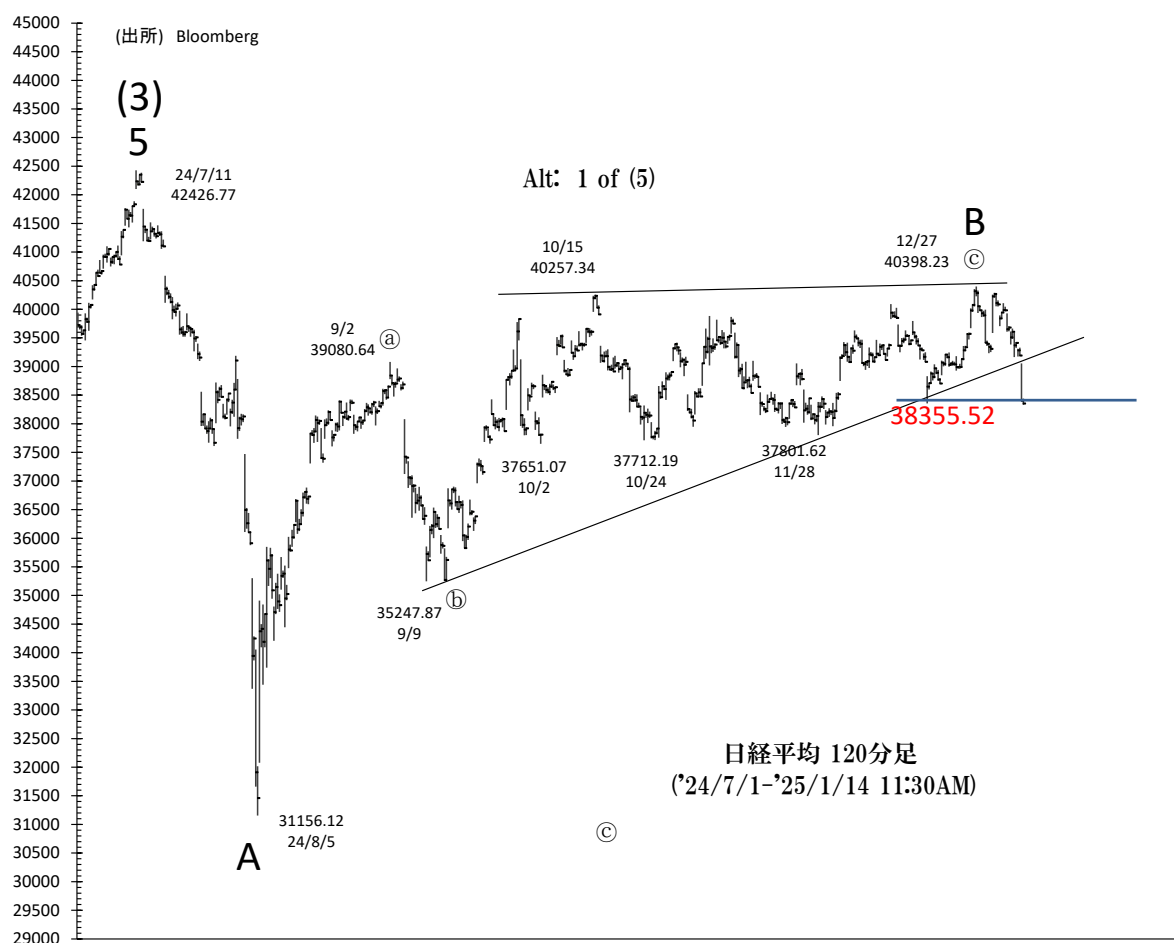
もっとも、24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整はまだ続いているようです。これによると第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は一度大きく下押しする可能性があります。



[予想 PER 別の日経平均水準]



日経平均予想 EPS は 1 月 10 日時点で 2496 円。昨年 10 月 5 日に付けた過去最高値 2514 円に近づいています。高値更新なるか、今後の動向が大いに注目されます。



【時間足 エリオット波動分析】

1 月 14 日前場に、日経平均は昨年 8 月からのアセンディング・トライアングルという弱気パターンから下放れはじめ、さらには当面の強気シナリオ維持のために重要なサポートレベル(38,355 円)※をも下抜きました。

この動きにより、31,156 円を第(4)波の終点とする見方は大きく後退しました。

第(4)波は依然続いており、40,398 円(12/27 高値)からは第(4)波中 C 波の下落とみることができます。

当面は 24 年 10 月からのレンジ相場下限である、37,650～37,800 円への下値試しとなりそうです。

さらに今後は 24 年 9 月安値の 35,247 円を一時的に下回る可能性があります。つまり、昨年 8 月一番底に次ぐ二番底を付ける展開です。

そのような下押しを経て日経平均は、最高値更新へ向けた上昇トレンドを取り戻すでしょう。

※これまでの 38,555 円という表示は 38,355 円の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

NY ダウ



【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の上昇(B)波を 45,073 ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

当面の下値ターゲットとして有力な水準は 24 年 4 月安値(37,611 ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、ここまで下げると NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%となります。



【時間足 エリオット波動分析】

24 年 12 月 4 日高値・45,073ドルを起点とする、最初の下げ波動(マル i 波)は、42,146ドル(24/12/20 高値)で終わりました。マル i 波の下げ幅は 2927ドル、下げ率は 6.49%でした。

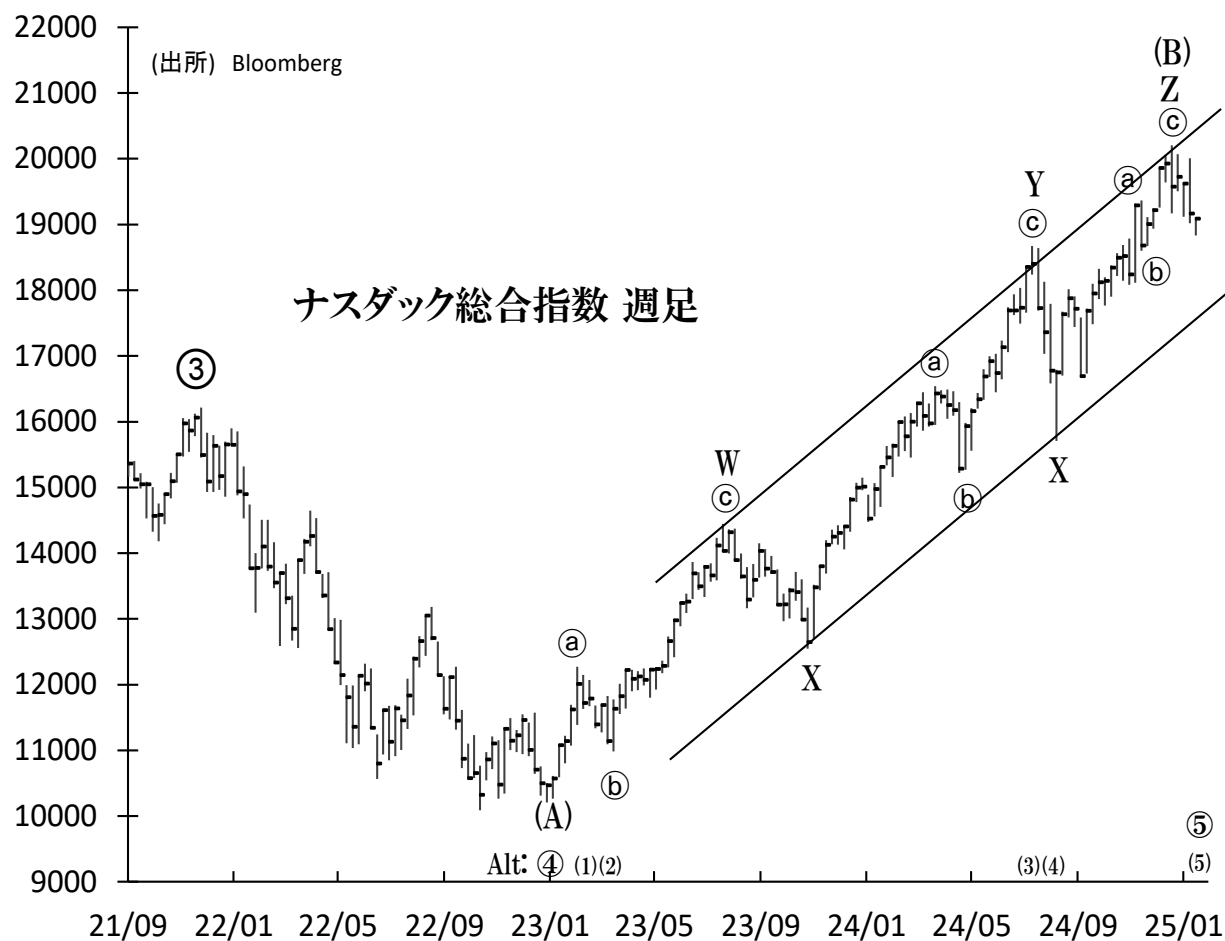
43,373ドル(12/26 高値)からは、**下降マル iii 波が進行中**とみられます。1 月 13 日には一時 41,844ドルまで下げ—この時点で高値からの下げ幅は 3200ドル余りに広がりました—24 年 11 月安値・41,647ドルが視野に入ってきました。もっともこの日は 358ドル高と大幅反発。採用銘柄のユナイテッド・ヘルス(3.9%高)が全体をけん引しました。

目先的に 42,180ドルを下抜くことをきっかけに、NY ダウの下落基調は再び強まりそうです。

一方、目先リバウンド継続の場合は、マル ii 波のパターンは「フラット」であり、43,373ドルを試す展開となりそうです。

いずれにしても、ひとたびマル iii 波がスタートすれば、その下落スケールはマル i 波を凌駕するでしょう。**1 月 20 日から始まる「トランプ政権 2.0」は、株安の洗礼をいきなり受ける可能性があります。**

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

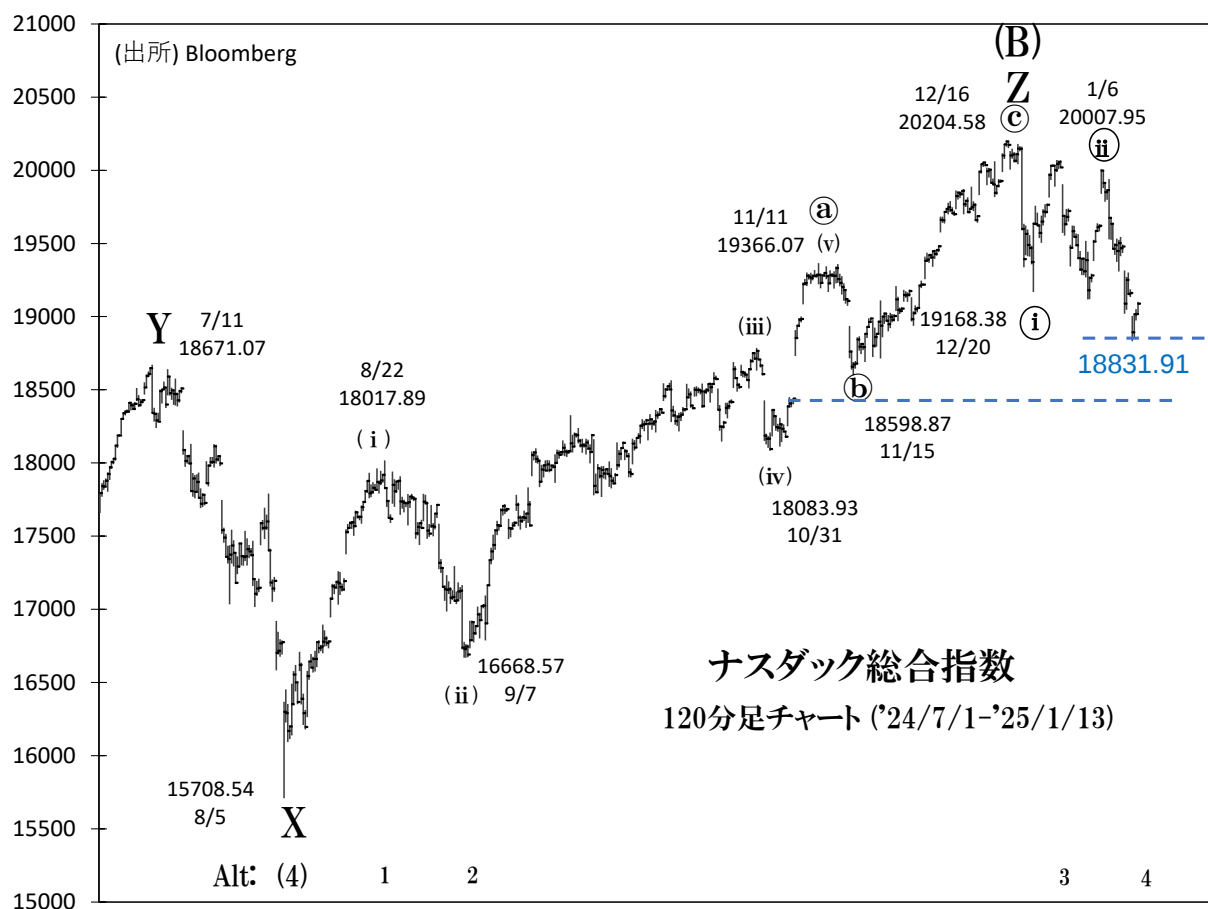
22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、④-(B)波による上昇とカウントされます。それは[不規則天井(イレギュラー・トップ)]であり、パターンは[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]です。

プリファード(優先)カウント

20,204(24/12/16 高値)を以て④-(B)波は完成し、そこから(C)波による下落に入った可能性があります。(C)波は(A)波(21 年 11 月～22 年 10 月、高値から 37%調整)と同等か、それ以上のスケールの下げになるでしょう。

オルタナティブ(代替)カウント

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。第⑤波未完成であるなら、大きな調整局面を迎える前に、ナスダックは最終的な天井を付けるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

20,007(1/6 高値)以来、マル iii 波による下落局面が進行中とみられます。

1 月 13 日安値は 18,831 ですが、この時点でマル iii 波の下落スケールは、マル i 波(下げ幅 1036 ポイント、下げ率 5.13%)を超えました。当面の下値ターゲットは、11 月 6 日のギャップを埋める水準[18,449](上チャート破線の水準)です。この近くには、フィボナッチ比率からの節目である[18,331](マル iii 波の下げ幅がマル i 波の 1.618 倍)が控えます。

【オルタナティブ・カウント】

24 年 8 月安値(15,708)以来の上昇は第(5)波です。この上昇トレンドは、五波動構成(1-2-3-4-5)であり、足元の安値から第 5 波の上昇が始まったか、始まりつつあります。

この第 5 波によってナスダックは、[20,400-21,300]へ上昇する可能性があります。なおこの波動カウントは、現行の下降波動が、昨年 8 月 22 日高値(18,017)とオーバーラップした時点で消滅します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

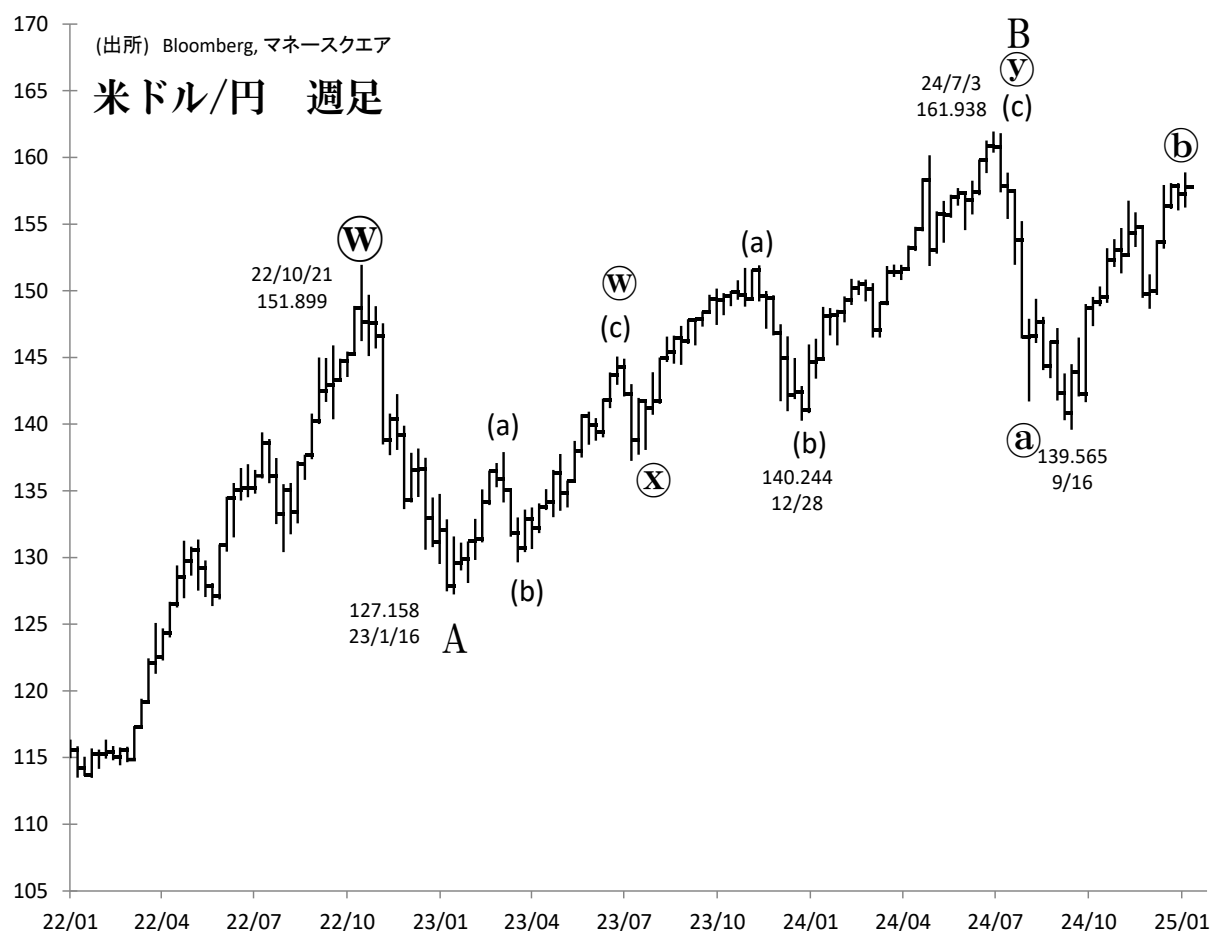
22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクスパンディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は135.655円(1月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.030円(1月)です。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

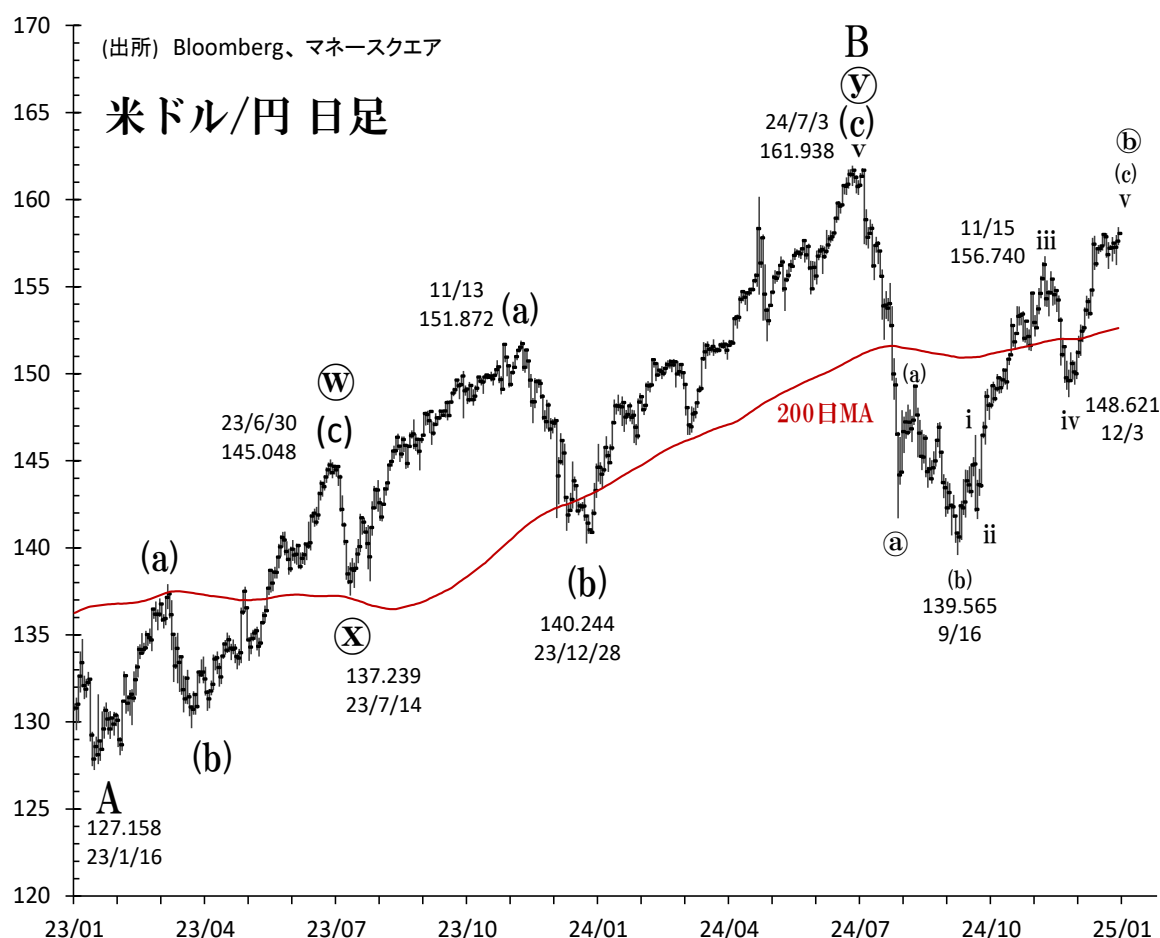
161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。C 波は三波構成 (a)–(b)–(c) になるでしょう。

1 月 10 日にドル/円は一時 158.825 円まで上昇する場面がありました。160 円打診も視野に入る状況ですが、**⑥波リバウンドはいつ終わってもおかしくありません**。24 年 7 月高値(161.938 円)に次ぐ「二番天井」は近づいており、③波のドル安・円高が始まると予想します。

24 年 7 月高値を上抜いたときの考え方

メインシナリオ上、24 年 7 月高値(161.938 円)を上抜くことはない、とみています。しかし見通しと異なり、161.938 円を一時的にも上抜く場合には、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月)が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くとイレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)より、⑥波「エキスパンデイト・フラット」が展開しています。

139.565 円(9/16)からの⑥波-⑦波によるリバウンドは目先のにも終了し、ドル安円高基調が再開する見込みです。25 年には 139.565 円(9/16)を大きく下抜くとみています。

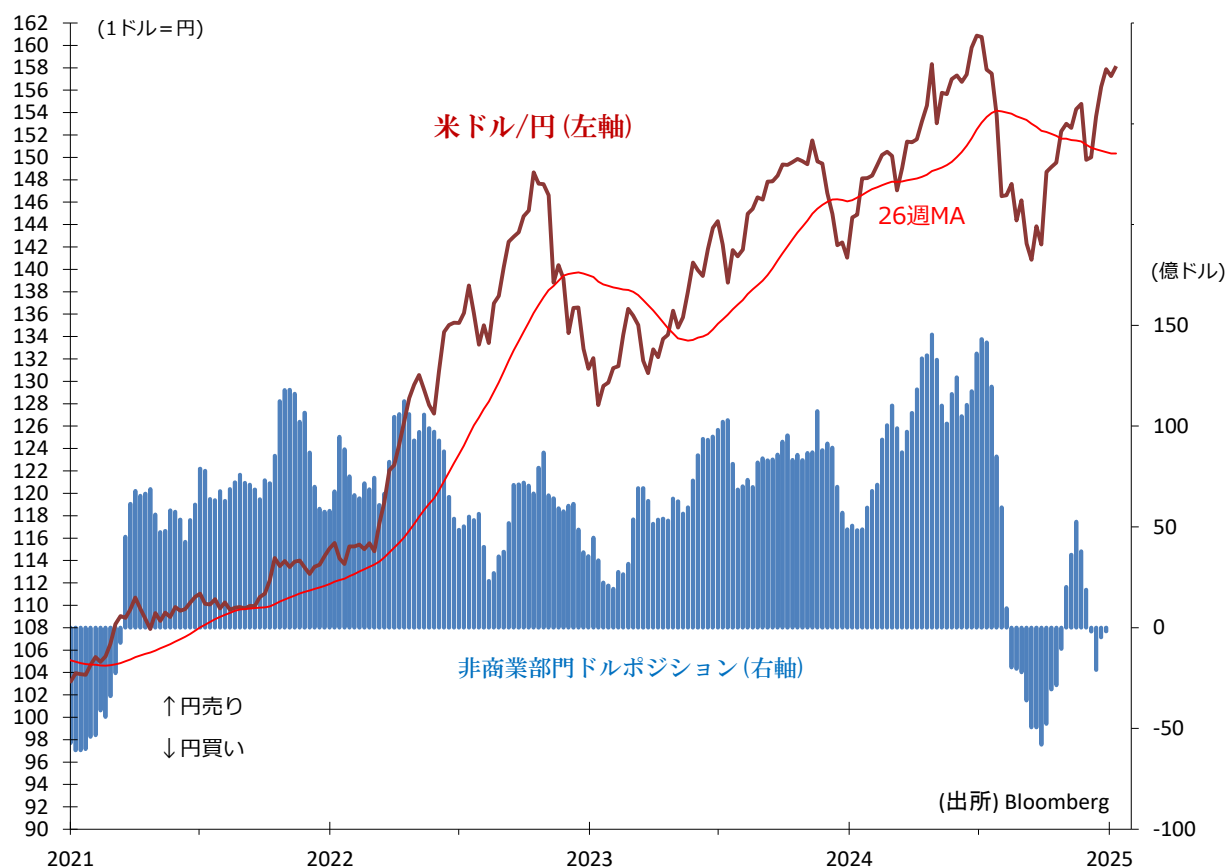
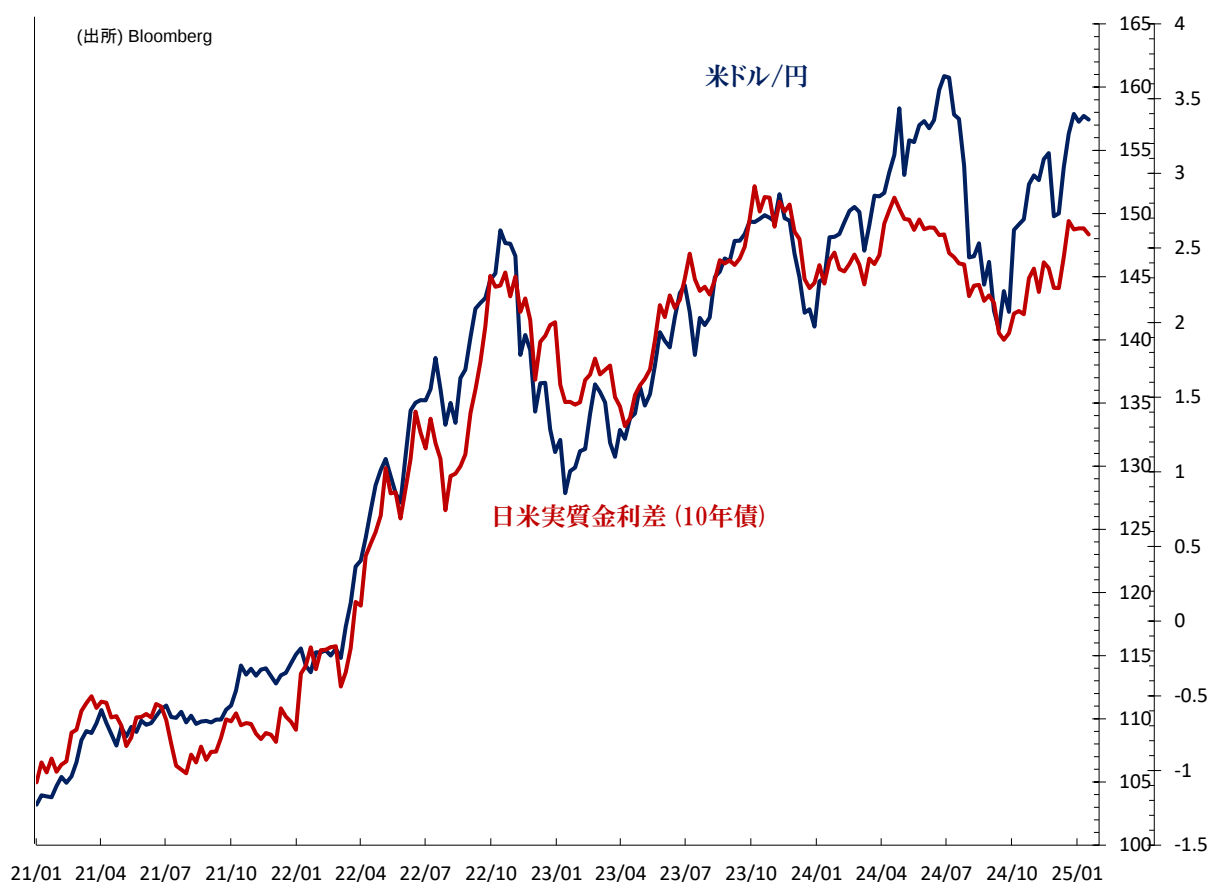
金利差からのドル/円推計値

このところ米 10 年長期金利の上げが目立ちますが、日本国債 10 年金利(JGB10 年)も連れ高しています。足元、JGB10 年は一時 1.240%と 2011 年 4 月以来の水準へ上昇していますが、それは遠からず 1.300%を試し、さらには 1.515%-1.615%へ一段と上昇するかもしれません。この見方通りなら、米長期金利がさらに上昇しても日米金利差は広がらず、おのずとドル/円の上値も限られましょう。

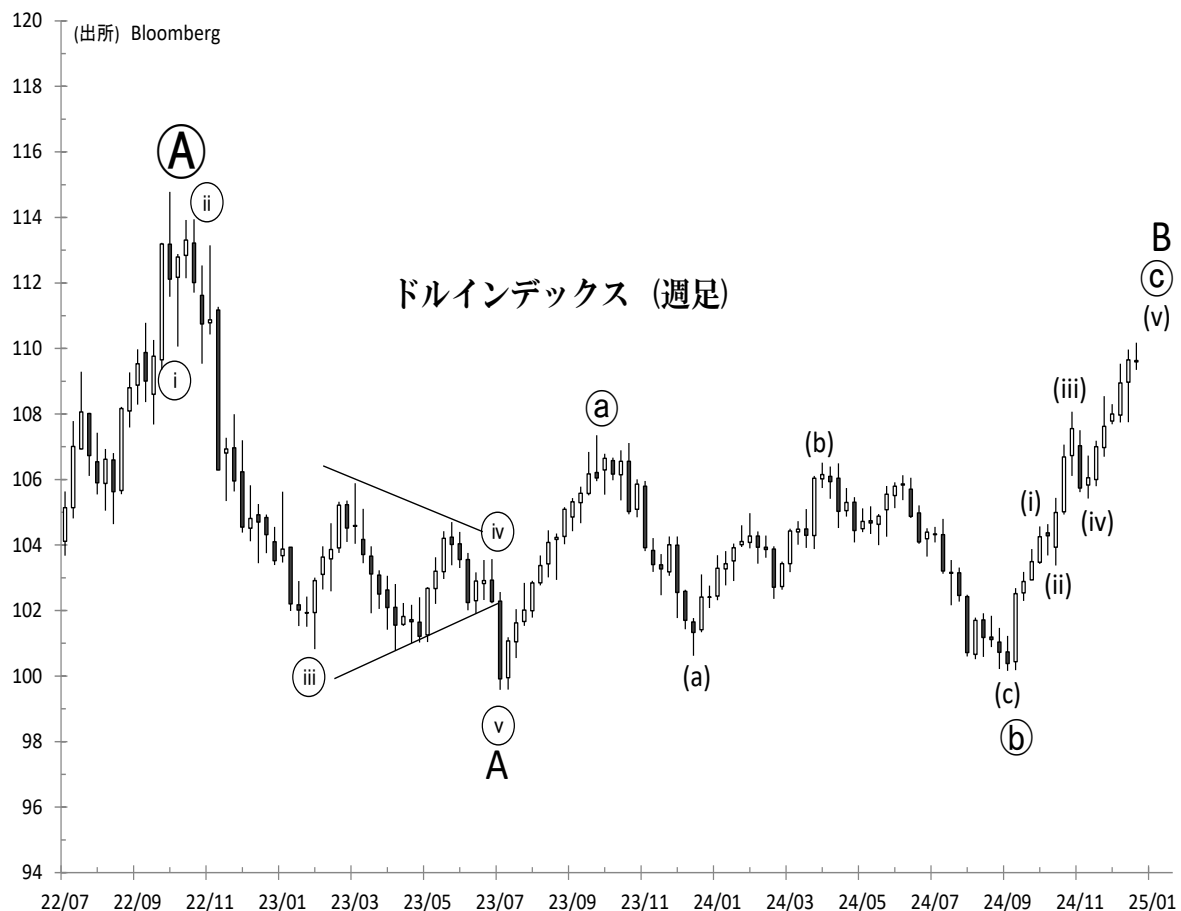
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[150.561 円]です。

投機筋が 5 週ぶりに円売り持ちに転じる(2024 年 12 月 31 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)は前週の円買い持ち(1.83 億ドル)から、6.71 億ドルの円売り持ちに転じました。円売り持ちへ転じるのは 5 週ぶりです。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

1月13日にドル指数は一時110.176まで上昇し、2年2カ月ぶりドル高となりました。

節目の109.533を上回ったことにより短期的なドル上昇余地が広がりました。フィボナッチ比率による次の節目は[110.311][110.895]です。

[110.311]…24年9月起点の◎波において、第(iii)波までの高さで第(iv)波の高さが、1:0.618になる水準

[110.895]…B波-@波とB波-◎波が、上昇幅において1:1.382になる水準

直近高値は節目に接近しています。ドル高はいつ終わってもおかしくありません。

22年9月～23年7月のA波において、ドルは10カ月で13.2%減価しました。このA波の期間と下落率は、C波を考える上で参考にすべきでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
